

Can you imagine?

90周年事業実行委員会 ダイアログ



Sun Messe



Future



サンメッセが100周年を明るく迎える未来のために、未来を見据える90周年事業実行委員会メンバーの皆さんに、事業への意気込みを語っていただきました。



90周年事業実行委員会とは？

2024年1月、サンメッセの90周年事業を推進する実行委員会が立ち上がりました。この委員会は入社5年目未満の社員を中心に構成されています。これからのサンメッセを担う若手社員の意見を尊重し、様々な施策に反映させていくことで、社内の風土改革に向けた重要な役割を担っています。サンメッセが100周年を明るく迎える未来のために、全社員が一体となれる様々な企画などにも積極的にチャレンジしていきます。



(出席者)

- | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|------------------------------------|
| 1 東京営業部
営業第一課 営業係
高木 憂斗 | 2 本社営業部
営業第一課 営業係 主任
樋口 雄基 | 3 IPS設計部
設計課 設計係
大岡 拓輝 | 4 情報・コミュニケーション企画部
デザインユニット 本社デザイン係
吉村 七海 | |
| 5 生産管理部
工務課 工務係
住田 一音 | 6 DX推進室
社内DX推進 係長
田中 尚輝 | 7 岐阜営業部
営業第二課 営業係
上田 麻央 | 8 岐阜営業部
営業第一課 営業係
山田 壮真 | 9 IPS設計部
設計課 設計係
三品 翔 |
| 10 DX推進室
社内システム担当
錦野 文雄 | 11 新宿営業部
営業第二課 営業係
野口 航椰 | 12 情報・コミュニケーション企画部
コーポレートコミュニケーションユニット
東京企画係
野々田 美笛 | 13 名古屋営業部
営業第一課
神谷 玲央 | |



■ サンメッセ90周年事業への意気込み

樋口 私は90周年という節目に会社の成長や変革に携わって貢献することで、自分の成長につなげたいと思い実行委員会に立候補しました。

吉村 会社が動こうとしているのに、自分が何もしないまま90周年、100周年を迎えるのはもったいないなど。私にできることがあればチャレンジしたいです。

高木 私は経験者採用で当社に入社しましたが、前職でもこういった社内プロジェクトに参加をしたことがなかったので思い切って挑戦しました。

上田 90周年事業として、全社員が参加できるようなイベントを企画したいですね。業務でもイベント関連の仕事をしているので、この経験が相互作用して日常業務にもいい影響があるといいです。

山田 楽しく、わくわくするようなイベントを企画したいですね。実行委員として若手の自分が思いを発信できるのはとても意義があることだと思っているので、この機会を糧にしたいです。

錦野 60周年、70周年、80周年と経験してきましたが、社員がここまで参加できる機会はありませんでした。皆さんと違い、私は100周年を外で見ることになるので、この90周年があったから100周年を迎えられたと実感するために、実行委員に手を挙げました。

野口 正直、斜陽産業といわれる印刷業界の未来に危機感を感じています。だからこそこの90周年事業に携わり、100周年に向けた良い土台づくりがしたいです。

田中 野口さんと同じく、私も危機感を感じています。でも悪い意味ではなく、それこそが課題を自分事として捉えるきっかけになるはず。サンメッセの歴史を知り、今後のビジョンを考える。そしてどんな目的を持って進んでいきたいかをみんなで真剣に議論していくことが、サンメッセのパーパスの構築にもつながっていくはず。まずはこの実行委員が会社を変えていこうとする姿勢を見せ、社員全員に伝播するといいです。

■ 100周年の自分の姿、会社の姿

FA 90周年は、100周年に向けて重要な助走期間としても位置付けられています。100周年を迎えるときの理想像はありますか。

樋口 自分の目指す姿として、先を見据えた計画に対して目標を明確にし、どういうフローをたどっていけば実現できるのか、ちゃんと順序立てて進めていける営業になりたいです。

上田 私も営業としてまだまだ未熟なので、オールマイティーに対応できるようになってほしいですね。その中でも何か1つ、自分の得意分野をつくりたいです。

神谷 成長のために知識を付けるのはもちろん、尻込みせず失敗も積んでいきたいです。

三品 当社は今、IPS事業が好調なので、今後さらに業績を上げていくために、100周年の時には自分が役職に就いてこの事業を引っ張っていける存在になってほしいですね。

大岡 身近に尊敬できる上司がいるので、私も10年後にはリーダーシップが発揮できる立場になればと。

野々田 私は憧れられる存在になりたいです。個人としての成長はもちろん、会社も同様に「サンメッセってすごいよね」と、同業他社やクライアント、就活生などから憧れられるような会社にしていきたいです。

吉村 当社の企画力やデザイン力が主軸となるクリエイ

ター事業が立ち上がると面白そうです。

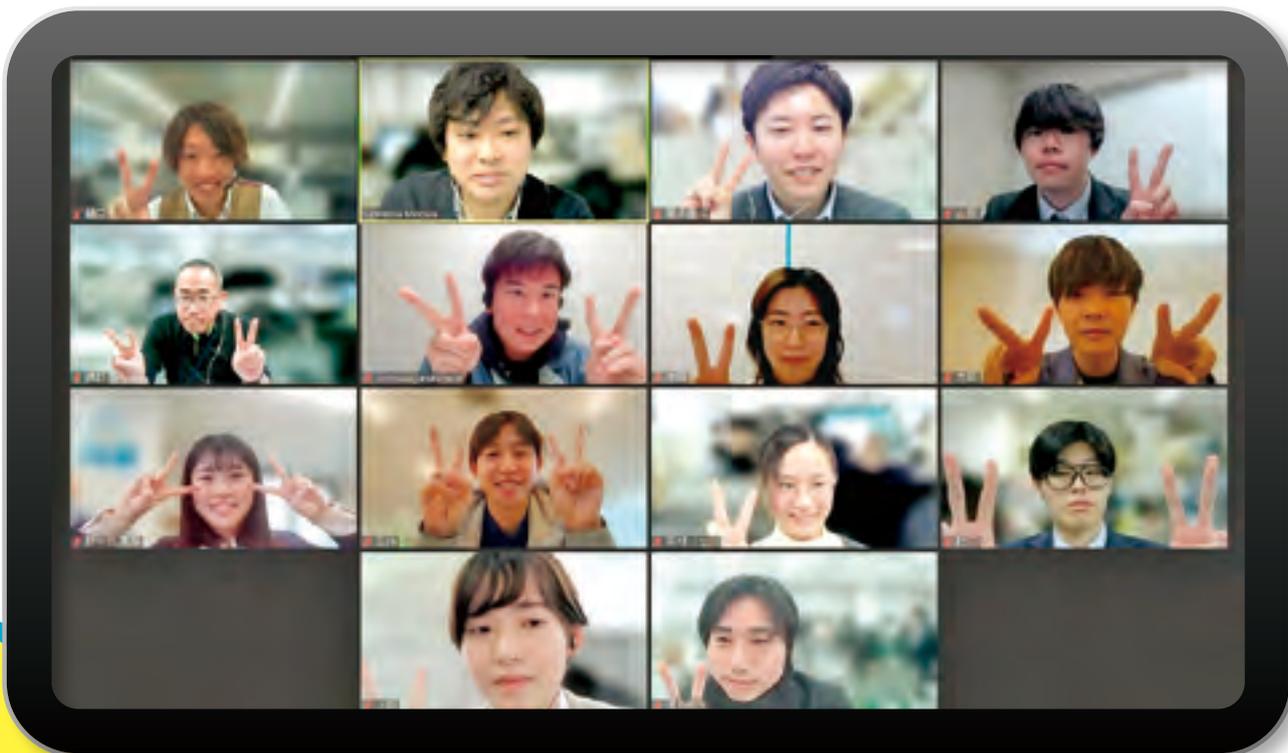
住田 ペーパーレス化が進みつつも印刷自体がなくなるわけではないので、私も印刷に付加価値を付けられる企画や編集業務に興味があります。

野口 お客さまからの相談で自分ができないとわかっていても、上司や製造部の方に相談すると実はできるという案件が多々あります。サンメッセは、ポテンシャルが高いんです。でもそれに気づけていない社員が多い。サンメッセの能力を、社員一人ひとりが自覚できるといいです。

田中 実体験でアグレッシブにアクションを起こしたからこそつかめた縁というのがあって。改めて自分から行動を起こすことの大切さに気付きました。挑戦を続けて100周年を迎える時、自分が変わった先で会社にも何か良い影響を与えられたらいいです。

山田 社員全員が100年企業という自信を持っていること、そこに慢心せずに新しく変わっていこうとすること。自信とチャレンジ精神、この2つがある会社になりたいですね。

錦野 やっぱり会社が成熟してきた先どうなっていくかは、挑戦する熱量を維持できるかだと思うんです。この実行委員会の熱量をほかの社員に伝えていけば、全社を巻き込んで挑戦して成長していける雰囲気ができるはずですよ。そうすれば絶対に90周年の成功と100周年への道は自ずと開けてきます。





■ 100周年を迎えるために、サンメッセに望むこと

FA 皆さんが思い描く100周年を迎えるために、サンメッセには何が必要だと思いますか。

野々田 営業部と製造部それぞれで、思い描くサンメッセの理想像は違うと思います。まずは一人ひとりの声に耳を傾け、そのギャップを埋めていきたいです。

神谷 当社は商業印刷を軸としながらパッケージやIPS事業にも力を入れています。印刷とまったく関係のない分野で強みとなる事業に取り組む必要があると考えています。100周年に向け、何か新たにスタートを切れる状態を整えるべきだと思います。

樋口 当社がパイオニア、先駆者になれるような、新しい取り組みや事業ができるといいですね。

山田 印刷物はあくまでお客さまの製品なので、当社の名前が世に出ることは少ないです。だからもっとサンメッセという名前そのものを発信できるような仕組みがあればいいなど。“サンメッセブランド”の確立というような、例えば、大垣は水が豊かだからサンメッセで農業や酒造りをするとか。そういうアイデアが生まれたときに「いいよ、やってみな」と挑戦を押ししてくれる雰囲気があるといいです。

高木 10年後は世の中の情勢がまた変わっていると思うので、柔軟に取り組める雰囲気が必要ですね。

野口 今年度、DX推進室という新しい組織が新しくできま

したが、やはり新しいものを生み出したり変化したりすることに対して、どうしても抵抗や反発が生じます。でも、挑戦しないと社会の変化にどんどん飲み込まれて淘汰されてしまう。社員全員がもっと貪欲にハングリー精神を持って、一丸とならなければと感じています。

住田 将来も自慢できるような会社にするためには、やはりハングリー精神が必要ですし、そのためには社員全員が同じ方向を向くことが大切です。そのためにも、コミュニケーションの重要性を感じています。

三品 確かに、異なる部署とのコミュニケーションが少ないかもしれません。もっと柔らかい雰囲気的交流できる時間があると、もっと会社全体に強いつながりができて業務がスムーズに進みそうです。

大岡 私も部門間の連携不足が気になっています。コミュニケーション不足から通達のすれ違いがあり、そこが印刷事故につながるリスクとなっています。90周年事業を通じ、自らが旗振り役となってこの課題を解消したいです。

田中 この90周年事業というチャンスを生かして、サンメッセを僕らが望むかたちに変えていくしかない。皆さんが言われたように、思い付くことに対してまずは自分が旗振り役になることが必要です。実行委員として楽しみながら、100周年に向けて風土改革を進めていきましょう。